【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】令和3年11月25日(2021.11.25)

【公開番号】特開2020-72395(P2020-72395A)
【公開日】令和2年5月7日(2020.5.7)
【年通号数】公開・登録公報2020-018
【出願番号】特願2018-205713(P2018-205713)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　19/115　(2014.01)
Ｈ０４Ｎ　 7/18　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　19/136　(2014.01)
Ｈ０４Ｎ　19/167　(2014.01)
Ｈ０４Ｎ　19/17　(2014.01)
Ｈ０４Ｎ　19/20　(2014.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　19/115
Ｈ０４Ｎ　 7/18　　Ｄ
Ｈ０４Ｎ　19/136
Ｈ０４Ｎ　19/167
Ｈ０４Ｎ　19/17
Ｈ０４Ｎ　19/20

【手続補正書】
【提出日】令和3年10月18日(2021.10.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
画像中で互いに重なり合っている物体の属性に基づき、該互いに重なり合っている物体のうち前面の物体に対する符号量を設定する設定手段と、
前記前面の物体の領域を、該物体について前記設定手段が設定した符号量で符号化する符号化手段と
を備えることを特徴とする画像処理装置。
【請求項２】
前記設定手段は、前記画像中で互いに重なり合っている物体のうち背面の物体の属性に対して予め設定されている設定符号量が、前記前面の物体の属性に対して予め設定されている設定符号量よりも大きい場合には、前記背面の物体に対して予め設定されている設定符号量を、前記前面の物体に対する符号量として設定することを特徴とする請求項１に記載の画像処理装置。
【請求項３】
前記設定手段は、前記前面の物体の属性が、背面を視認が可能な物体の属性として予め設定されている属性であれば、前記画像中で互いに重なり合っている物体のうち背面の物体の属性に対して予め設定されている設定符号量を、前記前面の物体に対する符号量として設定することを特徴とする請求項１に記載の画像処理装置。
【請求項４】
前記設定手段は、前記画像中で互いに重なり合っていない物体、前記画像中で互いに重

なり合っている物体のうち背面の物体、のそれぞれに対し、該物体の属性に対して予め設定されている設定符号量を設定することを特徴とする請求項１乃至３の何れか１項に記載の画像処理装置。
【請求項５】
更に、
前記画像中で互いに重なり合っている物体を検出する手段を備えることを特徴とする請求項１乃至４の何れか１項に記載の画像処理装置。
【請求項６】
更に、
前記符号化手段によって符号化された画像を出力する手段を備えることを特徴とする請求項１乃至５の何れか１項に記載の画像処理装置。
【請求項７】
前記画像を取得する手段と、
請求項１乃至６の何れか１項に記載の画像処理装置と
を備えることを特徴とする撮像装置。
【請求項８】
画像処理装置が行う画像処理方法であって、
前記画像処理装置の設定手段が、画像中で互いに重なり合っている物体の属性に基づき、該互いに重なり合っている物体のうち前面の物体に対する符号量を設定する設定工程と、
前記画像処理装置の符号化手段が、前記前面の物体の領域を、該物体について前記設定工程で設定した符号量で符号化する符号化工程と
を備えることを特徴とする画像処理方法。
【請求項９】
コンピュータを、請求項１乃至６の何れか１項に記載の画像処理装置の各手段として機能させるためのコンピュータプログラム。